

# 大乱と京中焼亡

1467年に始まる応仁の乱は、大きな転換の様相を帯びている。6代将軍の死を契機に将軍権威は失墜し、8代将軍の時代には将軍さえも有力守護の発言に左右された。守護の内紛から始まった応仁の乱は、将軍家の継嗣問題を巻き込み、京に留まらず各地にも火種をまいていった。遂に戦国時代の幕開けである。

## ○将軍権威の失墜

### ●くじ引き将軍

4代将軍<sup>(1)</sup> \_\_\_\_\_ の時代である1416年、  
前関東管領<sup>(2)</sup> \_\_\_\_\_ が反乱を起こし鎮圧された。



乱後、(1)は有力守護の不満防止に話し合いを重視し、  
次期将軍の決定はくじ引きでおこなわれた。

⇒結果、<sup>(3)</sup> \_\_\_\_\_ が6代将軍に就任した。

◇5代将軍は天折<sup>ようせつ</sup>

◇1428年、将軍の代替わりを機に<sup>しょうちよう</sup>正長<sup>しょうちよう</sup>の徳政一揆が発生



足利義教<sup>よしのり</sup>（6代将軍）  
くじ引きで将軍に選ばれる。  
それゆえに、義教は将軍権力の確立を急ぎ、時に神意で選ばれたことを盾に恐怖政治をおこなった。結果、赤松満祐に謀殺されてしまう。  
容赦ない弾圧に民衆から「悪将軍」とも呼ばれた。

### ●荒れる鎌倉府と将軍犬死

足利持氏が足利義教を軽んじたため、両者は対立した。

→1438年、<sup>(4)</sup> \_\_\_\_\_

…<sup>(5)</sup> \_\_\_\_\_ と関東管領<sup>(6)</sup> \_\_\_\_\_ の衝突を機に、

義教が(5)を討った事件

→1440年、結城合戦<sup>ゆうぎ</sup>

…持氏の遺児を擁した<sup>(7)</sup> \_\_\_\_\_ 氏の挙兵事件

⇒これらの他、義教は各勢力に強圧策で臨んだ。

◇1454年、鎌倉公方足利成氏<sup>しげうじ</sup>が関東管領上杉氏を暗殺したことで、

<sup>(8)</sup> \_\_\_\_\_ が起り、関東は一足先に戦国時代へ突入



京で「次は赤松討たるべし」と<sup>うわさ</sup>噂された。

→1441年、<sup>(9)</sup> \_\_\_\_\_

…危機感を抱いた守護<sup>(10)</sup> \_\_\_\_\_ が義教を謀殺した事件

⇒(10)は討伐されたが、将軍の権威は大きく動揺した。

◇(9)…将軍暗殺をきっかけに<sup>(11)</sup> \_\_\_\_\_ が発生



池を泳ぐカルガモの親子

赤松氏は「庭の池にカモの子が誕生し、親子で泳ぐさまが可愛いのでぜひお越しを」と義教を邸宅に招いた。この巧みな罠に、義教は騙された。

## 応仁の乱以前は外国の歴史—内藤湖南の主張

1921年、内藤湖南は「応仁の乱以前は外国の歴史であり、今日の日本を知るためには、乱後の歴史を知っていれば十分だ」と述べ、聴衆を驚かせた。これは単なる思いつきではない。多少のずれはあるが、乱の前後で①1日3食②木綿の服③味噌・醤油④肉食⑤座敷など、高度経済成長まで続いた和風生活様式の基本ができた(①②の一般化は戦国時代)。これらの点で、湖南は応仁の乱以前の日本を「外国」と表現する。



# ○大乱勃発

## ●将軍家の継嗣問題

8代将軍<sup>(12)</sup> \_\_\_\_\_ と妻<sup>(13)</sup> \_\_\_\_\_ には子がいなかった。  
 ⇒次期将軍は、(12) の弟<sup>(14)</sup> \_\_\_\_\_ と約束された。

(12) (13) の間に実子<sup>よしひさ</sup>足利義尚 (後の9代将軍) が誕生した。  
 →(13) は、約束を破棄し、次期将軍に義尚を就けようとした。  
 ⇒この変更で、将軍家の継嗣問題<sup>けいし</sup>がくすぶり始めた。



図1 足利義政

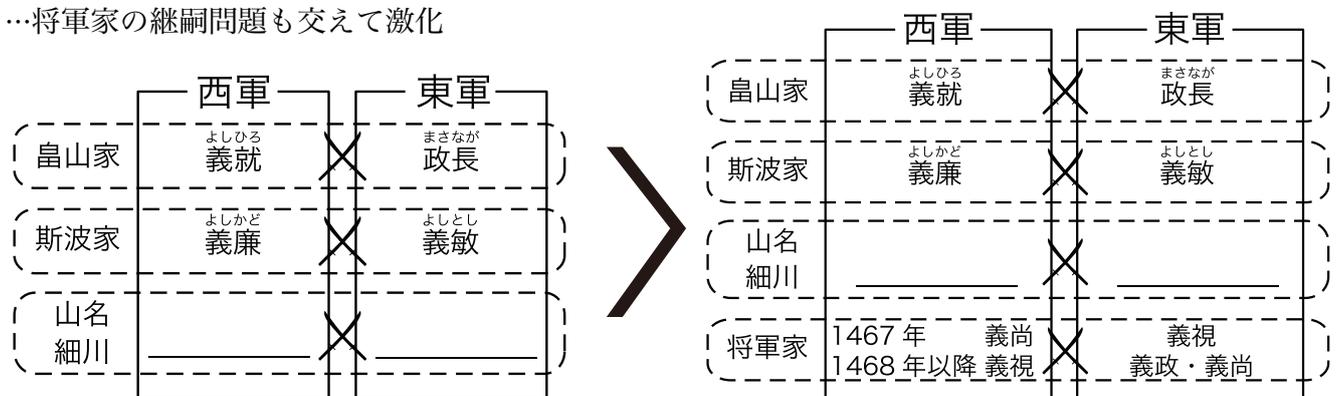


図2 日野富子

## ●京を荒廃させた大乱

守護が内紛・家督争いで2勢力に分かれて対立した。  
 ⇒1467~77年、<sup>(15)</sup> \_\_\_\_\_

- …京を戦場とした西軍・東軍の2勢力の争い
- …将軍家の継嗣問題も交えて激化



## ●乱後の社会変動

応仁の乱で、全国に次の①~④の変化が生じた。

- ①<sup>(16)</sup> \_\_\_\_\_ の風潮による全国的な争い (戦国時代へ突入)
  - ②在京義務の守護が自分の国を心配して地方へ下向
  - ③貴族が守護を頼って地方へ下向 (京の文化の伝播)
  - ④守護の下向に伴い、幕府の体制崩壊、荘園公領制の解体進行
- ◇(16) …伝統的権威に頼らず、実力で上位の者を打倒すること



**足軽**  
 応仁の乱の頃盛んに活動した惣村の地侍層。軽装で集団戦法に向き、後に兵として用いられた。公家の日記には、足軽に対する非難罵倒が見られる。

## ●下剋上の風潮

下剋上の例として、次の①②の出来事が有名である。

- ①1485年、<sup>(17)</sup> \_\_\_\_\_  
 …<sup>(18)</sup> \_\_\_\_\_ が一揆を結び、応仁の乱後も国内で抗争を続ける<sup>(19)</sup> \_\_\_\_\_ 氏両軍を、国外へ撤退させ、8年間実効支配
  - ②1488年、<sup>(20)</sup> \_\_\_\_\_  
 …<sup>(21)</sup> \_\_\_\_\_ 国の一向宗 (浄土真宗の一派) が、守護<sup>(22)</sup> \_\_\_\_\_ を倒した一揆  
 …約100年間一向宗が国を支配し、その支配を「百姓ノ持タル国」と呼称
- ◇本願寺の<sup>れんによ</sup>蓮如による布教が、一向宗の増長の背景